

# 伊丹市 文化財ボランティアの会

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課内（伊丹市千僧1-1-1）



## 伊丹市内ボランティアガイドのご案内

伊丹市内にある文化財(史跡)のガイドをご希望される方は  
伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課 文化財担当まで 電話(☎:072-784-8090)  
または文化財ボランティアの会にメール(ibunbora@yahoo.co.jp)でお申込みください。

### 【ガイドコース】

- Aコース:有岡城跡・荒村寺・市立伊丹ミュージアム(旧岡田家・旧石橋家)・猪名野神社など
- Bコース:猪名野神社・伊丹緑道・白洲屋敷跡・辻の碑・伊丹廃寺跡など
- Cコース:昆陽池・東天神社・山陽道(西国街道)・昆陽寺など
- Dコース:鴻池神社・慈眼寺・鴻池稻荷祠碑・容住寺・天日神社など
- Eコース:御願塚古墳・都市景観形成建築物・須佐男神社・南野神社など
- Fコース:有岡城跡・桑津神社・加茂神社・称名寺・春日神社・伊丹スカイパークなど

## 市民ガイド(令和5年度第4回)

### 歴史散歩「行基の足跡を歩く」- 昆陽池から西国街道を辿って昆陽寺へ -

天候の悪い日が続いていましたが、2月24日当日はお日様も顔を出し、市民ガイド日和に恵まれました。今回の市民ガイドは、わかりやすさを心がけて作ったチラシの効果か、伊丹で人気の行基さまの御利益か、受付開始日のうちに15名の定員いっぱいになる人気で、文化財ボランティアの会としてもうれしいことです。ガイド担当5名を含む7名体制で案内しました。

スワンホール前でのご挨拶を済ませ、昆陽池からガイドは始まります。今日のリーダーの竹本さんから、行基の出自や社会支援活動の紹介、伊丹市民おなじみの昆陽池・天神川・天王寺川の由来などの説明です。しばらく歩いて国道171号を渡り、大名行列を横切り打ち首になった悲しい子どもの言い伝えのある首切り地蔵の説明の後、西国街道に入ります。稲野小学校正門前で、西国街道の成り立ちや有馬道交差点道標の説明です。

次に訪れた東天神社も行基ゆかりの由緒ある神社です。鬱蒼とした鎮守の森をバックに、神社の由来、有馬道の道標、西行法師の歌碑などについてガイドしました。

次は小さな公園の中にある長勢橋の碑に立ち寄ります。伊丹にも幕末動乱にかかわりのある碑が残されているのです。法巖寺(三軒寺の大クスのお寺)の移転前跡地に寄った後、西国街道沿いにある昆陽村西の庚申さ



んの祠の前で末次会長から説明です。今日のコースでは東・北の庚申さんも巡っています。災いや疫病を防ぐ信仰として、近年まで60日ごとの寄合いなどが残っていたそうです。

最後は、いよいよ昆陽寺です。竹本リーダーによる説明は山門から鐘堂、本堂と進みます。本堂前には、早くも梅が満開で、行基さまが我々を喜んで迎えてくれたようです。さらに、観音堂、行基堂、最後に供養塔に進みます。木漏れ日の中の供養塔での説明は、行基さまの猪名野・伊丹での活動への熱い想いを説明するものです。

定員いっぱいの市民参加者、穏やかな天候と梅の花、行基さまの想いを伝える説明、真冬にもかかわらず気持ちが温くなる市民ガイドでした。(岩崎記)



### 令和6年度市民ガイドの予定

- 第1回 6月15日(土)  
「清酒発祥の地鴻池と荒牧」
- 第2回 9月28日(土)  
「御願塚古墳周辺」
- 第3回 2月22日(土)  
「伊丹空港そばの弥生遺跡」

\*上記の内容は予告なく変更する場合があります。予めご了承下さい。

## 第 29 回文化財ボランティア養成講座を終えて

～29 期生へのエール～

第 29 回文化財ボランティア養成講座（全 8 回）は、3 月 2 日の市内史跡巡り「中心市街地で文化財を探そう」をもって終了。ガイドを担当した 9 名の受講生が修了証を取得しました。第 1 回から修了式まで全 8 回の講座を振り返ってみたいと思います。

第 1 回（1 月 9 日）のオリエンテーションから始まり、その後 4 回（第 2-5 回）の座学が行われました。第 2・3 回は「市域をはしる路（みち）①～陸路と川～」、「市域をはしる路（みち）②～線路と空～」について学びました。

第 4 回のテーマは「古墳時代から奈良時代の伊丹～猪名寺古墳群と伊丹廃寺～」を出雲弥生の森博物館館長・花谷浩氏、第 5 回のテーマは「歴史的建造物について」を京都大学名誉教授山岸常人氏が、それぞれ講師を務められました。第 6・7 回は文化財ガイド実習に向けた準備・リハーサルを行いました。

3 月 2 日（土）の最終回では 9 名の受講生が一般募集した参加者（7 名）に対して実際にガイドを行いました。午前 9 時 30 分頃、気温は 3℃。晴天でしたが肌寒い中、スタッフも含めた総勢 21 名でカリヨン塔前をスタートしました。



順に以下のポイント

においてガイドを実施しました。

### 【史跡めぐりガイドポイント】

- ① 古城橋（鉄道について）
- ② 石造地蔵菩薩立像（市指定文化財）
- ③ 有岡城跡主郭部前（荒木村重について）
- ④ 三軒寺前広場（伊丹郷町について）
- ⑤ 東りいたみホール前（有岡城の惣構について）
- ⑥ 猪名野神社（猪名野神社について）

- ⑦ 猪名野神社（上島鬼貫句碑について）
- ⑧ 旧石橋家住宅（旧石橋家住宅について）
- ⑨ 旧岡田家住宅（旧岡田家住宅について）

私が文化財ボランティアの会に入会し、はや 1 年が経ちます。ボランティア養成講座の市内史跡めぐりに同行し、自分の初ガイドを思い出

し、当日のガイドの姿勢をみて真摯に初心に帰らなければと思いました。今回の市内史跡巡りの特徴としては、



通常のガイドコースに加えて、JR 福知山線開発の歴史と有岡城跡について、1977 年（昭和 52）旧国鉄福知山線電化工事中に伊丹駅構内地下で発見された「石造地蔵菩薩立像」、「伊丹郷町」、東りいたみホール前「惣構」等伊丹の文化財、歴史に関する案内が追加されたことでした。9 つの各ポイントにおいて、各受講生は緊張しつつも座学で学んだ内容等を参考にして作成した資料を用いながら落ち着いて簡潔に説明していました。午前 11 時 15 分、旧岡田家住宅でのガイド終了後、受講生 9 名に市の文化財担当・中畔主幹から修了証が手渡され、養成講座の全課程が終了しました。

受講生の皆さま、長期にわたる講座お疲れ様でした。今後は文化財ボランティア



の会に入会されて、共に学びながら史跡ガイドや旧岡田家住宅・酒蔵の案内、分科会活動などで活躍していただくことを期待しています。（松永 記）

## 令和6年度総会開催

4月9日(火)、スワンホールにおいて、令和6年度総会が開催されました。

午前9時から幹事一同による会場設営を行い、定刻の午前9時30分から始まりました。本年度は7人の新しい会員を迎えるとともに、伊丹市文化財担当中畔主幹に臨席いただきました。末次会長による開会の挨拶では、第35代ケネディ米大統領の就任演説から“Ask not what your country can do for you; ask what you can do for your country”という一節を引用し、これになぞらえて「この会があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたがこの会のために何ができるのかを問うて欲しい」、そういう意識で積極的かつ自主的に会の活動に参加し、盛り上げて欲しい、と述べられました。

中畔主幹のご挨拶の後、総会議案書議事次第に基づいて粛々と議事進行されました。

末次会長の令和5年度活動報告、角谷幹事の同年度会計報告、丹野監事の会計監査報告はいずれも拍手をもって賛同を得ました。引



き続き、末次会長から令和6年度役員人事案が説明され、新任幹事4名を含む11名の役員人事案が了承されました。さらに、議案第1号令和6年度活動計画案を末次会長から、議案第2号令和6年度予算案を、新任で会計担当の小川幹事から説明され、会員の承認を得てそれぞれ成立しました。以上をもちまして、令和6年度活動計画案・予算案は、原案通り承認・可決されました。



5分間の休憩の後、令和6年度新入会員7名(梶尾、関、妹尾、辻野、徳本、松島、松山)が順番に自己紹介を行いました。

その後、4月度定例会を開催。各班の活動報告及び今後の予定、分科会スケジュールの確認、ガイド勉強会年間スケジュール、当会運営細則の改定、会員リスト兼緊急連絡網の作成、定例会資料メール配信などについて説明がありました。

以上をもって総会・定例会は滞りなく終了。昼食を挟んで会員相互の親睦を図るための懇親会が開かれました。懇親会は角谷幹事、本郷幹事の司会進行で6つのグル



ープに分かれ、1クール30分程の中でクイズ(頭の体操)に、当会入会動機を織り交ぜての自己紹介を行うというユニークなコミュニケーション形式で、グループメンバーを3回入れ替えながら行い、和気藹々と会員相互の親睦を図ることが出来た約1時間30分でした。

(編集記)

## 第 29 期新人会員紹介

新しく会員になられた7名の方々の自己紹介です（敬称略）。

みなさん、よろしくお願ひします。

### 梶尾晴美(かじお はるみ)

鹿児島県生まれ伊丹育ちで、尼崎市に住んでいた時期もありましたが25年前から再び伊丹市に戻ってきました。昨年、娘と一緒に伊丹ミュージアムに行き旧岡田家住宅の見学をしていたところ、熱心にガイドをしてくださる方がいらっしやいました。少しとまどい、びっくりしましたが話を聞いているうちに、昔の人の生活・文化・歴史がいまも大切に保存、守っている人たちの存在に感心しました。

いたみ広報で伊丹市文化財ボランティアの養成講座の開催を知り受講することにしました。また、養成講座での実践ガイドの折、ボランティア会員の方々が同行してくださり心地よい声かけと対応をうれしく思い、私も勉強し伊丹の魅力を発信できたらとボランティアの会に入会しました。皆様、よろしくお願ひします。

### 関 君恵(せき きみえ)



退職後、山歩きや街歩きを楽しむようになり、ボランティアガイドさんにお世話になる機会がありました。深い学びが得られ、また同時に、その地元愛に感銘を

受けました。私自身はというと、30年以上伊丹市民でありながら、歴史や文化など何も知らずにおりました。そんな折、養成講座のチラシを目にし、早速申し込んだ次第です。入会により、伊丹市の史跡や文化財について勉強し、楽しく活動できたらと願っています。新たなご縁に感謝しております。皆様ご指導よろしくお願ひ致します。

### 妹尾 優香(せのお ゆか)



出身は神戸で結婚後は転勤で四国にも居を移しました。その後伊丹には30年以上住んでいるのにも関わらず、全く歴史を知りませんでした。この数年は神戸の歴史や街歩きを楽しみ、その土地を好きになっていきました。では伊丹はどうなんだろうと、気になり始めた時に、文化財の講習を知りました。丁度伊丹の民話などで行基さんや鯉石、また、御願塚古墳など、街中でも歴史に触れていたこともあり、教えていただける機会があるとワクワクして勉強させていただきました。

又先日、学習支援班の紙芝居イベントも見学させていただきました。子供たちに伊丹の素晴らしさを伝えて、伊丹に住んでいる事を誇りに思っただけいいし、私自身どんどん伊丹の街や人を好きになっていきたいです。先人の智や文化の記憶を、今後も引き継いでいくために、関わられる喜びを感じています。どうぞ宜しくご指導の程をお願いいたします。

### 辻野 文三(つじの ぶんぞう)



私は理工系の仕事に従事、数年前に退職しました。伊丹市は約30年間住んでいます。勤務中は、伊丹市は寝るところで、伊丹市の行政・教育・歴史などについては無関心でした。退職後は歴史について興味を持ち、いくつかの組織、団体にテンポラリーに参加しました。そこで、疑問に感じたことは演者によっては真逆のことが述べられていることがありました。

ここで、考えられることは1.どの立場に立って述べておられるか？2.演者の知識度について？3.歴史学者、歴史小説家などの作為性など？4.本当かどうかの誤った伝承の言い伝え？5.マスコミの恣意的な放映など6.その他、などが考えられます。このようなことで、伊丹市文化財ボランティアの会に入会させて頂いて、現代社会と対比させて伊丹の歴史を学ばせて頂くつもりです。

### 徳本 祐子(とくもと ゆうこ)



学生時代より歴史が好きでしたが、昨年退職してこれから好きなことをしようと思ひ、ラスト歴史サロン「伊丹の歴史と文化財」等の講座を受講しました。

伊丹に住んで40年になりますが、地元の事をあまり知らないで伊丹の歴史を学び、実際にその場所にふれてみたいと思いました。

百聞は一見に如かずで、それなりに知っていたつもりでしたが、実際に見てみないと本当に理解できていない事がわかったので、これからはいろいろな所に行ってみたいと思います。どうぞ皆さまご指導よろしくお願ひいたします。

### 松島 稔(まつしま みのる)



全国転勤のある会社にしたため豊岡、広島、田辺、沼津、熊谷とあちこちに住んできました。広島では厳島神社、田辺では熊野古道、天神崎、沼津では東海道の

宿場町、熊谷では秩父札所巡りと各地の名所、旧跡を訪ね歩きました。転勤は大変だったのですが、出身の尼崎にいたのでは多分絶対に行かないだろうと思うと楽しい思い出でした。

定年後伊丹市に居を構え、さて今後どうするか考えたときになかなかいい案が思い浮かばな

かったのですが、幸いにして一か所仕事が見つかりました。しかし月に3日位しか出番がなく毎日暇を持て余す状況でした。

そんなときに園田学園の公開講座「尼崎の歴史文化遺産」を受講しました。もともと尼崎出身で郷土史にも少し興味があったので講座に出てくる場所等に親近感があり楽しいものでした。講座が終わりさて伊丹ではどうかと考えたときに有名な史跡、名所等があるのは知っていましたが、その歴史的な背景などはほとんど何も知らない状況でした。名所旧跡を回っても一人で調べて回るのは大変です。そこで今回、伊丹市文化財ボランティアの会に入会させてもらひ自分の知識を深めると同時に伊丹に興味のある人にその一端でも還元させてもらえたらと思ひました。今後ともよろしくお願ひします。

### 松山 幸江(まつやま ゆきえ)



結婚するまでの23年間はずっと伊丹市で、結婚してからの42年間は宝塚市安倉南で暮らしていました。今は伊丹市鴻池に住んでいます。昨年の10月初めにきら

らホールで伊丹市文化財保護啓発事業のチラシを見つけ、11月3日の『有岡城跡と南・西の砦跡を巡る』に参加しました。案内ガイドをボランティアの皆様が上手にされていて、私もやってみいたいなあ、グループに入りたいなあとその時に思いました。この啓発事業、他にも面白そうな事業ばかりで、『旧岡田家&旧石橋家住宅特別公開』『きらら日本酒学講座』と参加していくうちに、もっと市の史跡、文化財の歴史を知りたい、勉強したいと思ひ始めました。

でも、自分だけが学ぶのではなく、何かのお役に立てるように楽しく学んでいきたいと思ひていますので、何も知らない私ですがご指導よろしくお願ひいたします。

## 研修サロン班活動報告

### 旧村シリーズ 『御願塚村のミステリー』

2月15日(木)昨日の好天気とは打って変わり、雨雲が迫り来る中、総勢13名の参加で、

ガイド担当は足立繁さんで、定刻9時30分に阪急稲野駅を出発しました。思い返せば、御願塚古墳をガイド参加するのは久しぶりで、平成31年の第24回文化財ボランティア養成講座の修了式で、玉浦さんが温塚、掛塚を、佐々木さんが御願塚古墳を、榎良子さんが能阿法師の歌碑を、新井若菜さんが須佐男神社を初々しくガイドしてくれたことが思い出されます。



そして、令和元年には、御願塚文化財愛護少年団の小学生達が御願塚にある6つの愛宕社を巡りガイドをしてくれました。随分練習をしたように、立派にはきはきと話をしていた記憶があります。

今回は地元南野北の住人の足立様の担当ですので、どのような視点でガイドをされるのか？ドキドキ、ウキウキしてついて回りました。まずは精米所跡篋ビルの石臼の壁に始まり、和田邸、大手前大学の温塚、掛塚は、大規模マンション建設の為、保存会の方で保管しているとのことで見ることが出来ませんでした。稲野公園事務所の東には、伊丹市内唯一の「二等三角点」の標石があります。昭和63年2月に設置され、東京湾の平均海面を基準(標高0m)として標高8.04mあるそうです。

⇒覗き見る班員



次の「御願塚古墳」は帆立貝式前方後円墳と呼ばれている。墳頂部に建てられている南神社

は御願塚3丁目にある須佐男神社の下社で祭神は孝徳天皇です。兵庫県指定文化財史跡に指定されています。

二重周濠の二重目の小規模な馬蹄形の外濠が発見され、その内から円筒や形象埴輪の破片が出土しています。又、周濠の水が村の田畑の用水になっています。



そして「須佐男神社」は旧御願塚村の氏神様で、祭神は牛頭天王・須佐男(天照の弟)です。奈良時代、僧行基が御願塚古墳の場所で猪名野開拓の完遂を祈願したのが鎮祭の始まりと伝わる。当地には上社(北の宮)(北野山大神宮)(北の大権現)、中社(中の宮)(須佐男神社)、下社(南の宮)(南神社)があり、本来ここには、北の宮さんだけが祀られていましたが、新幹線の開通により、中の宮さんが分断されたために、昭和45年に中社の須佐男神社が上社の境内を拡張して遷座され、昭和47年伊丹市指定文化財となりました。



最後に、「浄土宗菩提山西光寺」は天正2年(1574)定誉上人岌禅の開祖と伝えられる浄土宗の寺です。本尊は阿弥陀三尊、脇侍善導大師・円光大師です。昭和45年の新幹線施工工事に際して現在の場所に移転しました。

—追記—

篋（やの）惣一郎は、県指定史跡「御願塚古墳」の北に位置する旧家です。敷地北より南に面して主屋を建て、方形の敷地を囲うように

北辺に衣装蔵、格子の間、穀物蔵、炭納屋を並べ、東辺及び南辺に納屋、米蔵、長屋門を建て、この間を繋ぐように東北塀と南西塀を道



に面して建て、敷地周囲を画しています。主屋はつし二階建入母屋造り棧瓦葺。南面に式台を構えた大規模な主屋で集落の歴史を物語っています。令和5年11月24日の国の文化審議会にて審議・議決を得て、国登録有形文化財に答申されました。伊丹市では東り歴史館について2例目となります。

場所は御願塚3丁目須佐男神社東南にあり、天保9年(1838)、江戸時代後期に建てられました。伊丹市都市景観形成建築物で指定9号、昭和60年12月指定を受けています。

ガイドの途中で、足立さんらしい得意の小話「ふぐ」を拝聴でき、良い思い出となりました。至る所で、良く勉強されている箇所が見受けられました。惜しい人材が3月に去るとのことは大変残念な思いです。(酒井正憲記)

---

## 研修サロン班活動報告

### 近隣市シリーズ

#### 『大阪市・大坂平野郷を巡る』

---

3月21日(木)朝10時、快晴の中、10名参加でJR平野駅より永野さんの担当で屋外研修に向いました。最初に平野郷環濠跡を見学し、

江戸時代の摂州平野大絵図をもとに説明を受けました。この平野は南北朝から戦国時代にかけて、摂河泉の中継点にあたり、町の周囲も濠と土居を築き、十三の出入りに総門を構えた強固な防御施設を持つ自治都市を造り上げ、平野は堺と並ぶ自治都市として栄えました。その後、大坂の陣では戦火で焼き尽くされましたが、徳川氏の協力で江戸時代には旧来の町割りをもとに復興されました。

現在、濠等は埋め立てられていますが、「摂津平野大絵図」や現地見学などで当時の町並みの様子を偲ぶことができました。

次の目的地の杭全(くまた)神社を訪問しました。9世紀平安時代の初め、平野郷も守護神として素戔鳴尊を勧請し、第1殿が奉祀されたのがはじまりです。第2殿、第3殿(大阪市内最古の建造物で、国指定の重要文化財)を見学しました。私が印象に残ったのは連歌所があり、現在も毎月1回連歌会が開催されていることです。福の種のお札をいただいて、平野小学校前の古河藩陣屋跡を通過して天王寺・玉造方面からの出入口である「馬場口跡」をみて、融通念仏宗の総本山である大念佛寺に向かいました。

大阪市最大規模である木造建築(本堂)は改修工事の為見学できませんでしたが、山門、経蔵、毘沙門堂、鐘楼、古河藩陣屋門を鑑賞しました。今日も寒さが厳しく、少しみぞれが舞ってきましたが商店街を通り抜けて、全興寺(せんこうじ)に到着しました。全興寺は高野山真言宗のお寺であり、ご本尊は薬師如来で聖徳太子の作と伝えられているようです。本堂への階段の上の墓股に蝸の装飾が珍しかったです。また大坂の夏の陣の際、真田幸村が、徳川家康が立ち寄ると見られた樋尻口地蔵





に爆弾を仕掛けましたが、爆発時にはたまたま家康は座を外していたために助かり、地藏尊の首が境内へ飛んできたと言われています。家康の身代わりとなったこの首は今も「首地藏」として大切に祀られています。そのあと、道標などを見て最終の目的地である、八尾久宝寺への出入り口となっていた「樋尻口門跡」と門跡の「地藏尊」、「平野公園」、「安藤正次の墓」を見学して本日の研修を修了しました。

私は大阪平野郷について初めての訪問でしたが、南北朝・戦国以降現在までの平野郷の自治都市・旧来の町割り、また神社・仏閣等に関して歴史、文化等大変勉強させていただきました。永野さん、再三下見にいかれて、わかりやすい資料を作成されてご説明ありがとうございました。(松永記)

#### 【研修サロン班 活動報告】

- 御願塚・・・2/ 1 (木) 勉強会、  
2/15 (木) 屋外研修
- 平野郷・・・3/ 7 (木) 勉強会、  
3/21 (木) 屋外研修
- 北河原～下川原  
・・・4/ 4 (木) 勉強会、  
4/18 (木) 屋外研修

### 旧岡田家住宅・酒蔵ガイドひとロメモ

旧岡田家酒蔵「米洗いの図」が目に入ります。これは「日本山海名産図会」と言われるもので、漁法並びに食品の製造法を表した書です。



江戸中期の博物学者の木村孔恭(こうきょう)または兼葭堂(けんかどう)と言われる方の著書です。それは寛政11年(1799)に刊行され、全国的な視野にたって各地の名産が調査されていますが、農林産物は少なく、水産と自然物採取が重点になっ

ています。水産物では海老、鰯(ぶり)、鮪(まぐろ)、鯖(さわら)、鰈(かれい)、小鯛、鯖、牡蠣、鰹、白魚、時雨(とき)、蛤などです。また御影石、石灰、それに伊丹の酒造などの発達過程、生産(漁獲高)、技術、販売輸送の方法の順で記述されています。各項目には部(しとみ)関月(かんげつ)の採取人名、漁獲、製造工程などの挿絵が配されていて、当時の産業状態をみるのに有益であります。関月は大阪書店主から画家に転じた人で人物や山水画に巧みだったようです。全5巻の内、1巻は全て伊丹酒に当てています。

■木村兼葭堂(けんかどう、1736～1802)は、元文元年11月28日大坂の北堀江瓶橋北詰の造り酒屋と仕舞多屋(しもたや、家賃と酒株の貸付)を兼ねる商家の長



子として生まれました。名は孔恭、字は世肅(せいしゆく)、巽齋(そんさい)と号しました。通称、坪井屋吉右衛門と呼ばれていま

した。代々酒造業を営み、庭の井戸から出た古芦の根にちなんで、書齋を兼葭堂と名付けました。幼時より植物に親しみ、本草学者小野蘭山に入門、渉外考索に努めました。多趣味で絵画は花鳥のほか山水を池大雅に学び、篆刻(てんこく)は高芙蓉に就き、温雅な作を残しました。また煎茶にも通じ売茶翁の遺品を伝えました。詩文は片山北海に師事し、宝暦8年(1758)頃より月例詩文会を催して混沌詩社の基礎を作りました。和漢の瀟洒(しょうしゃ)な書籍を自費出版しましたが、書画典籍や地図標本類の膨大な収集は内外に知られ、遠近よりの来訪者名簿「兼葭堂日記」は当時の文運向う好資料であります。享和2年1月25日66歳で没。小橋(天王寺区餌差町)大応寺に葬られました。

(酒井正憲記)

## 活動記録(2月~4月)

### 【定例会】

2/13 (火)・3/12 (火)・4/9 (火)

### 【史跡ガイド】

・2/3 (土) TMC 歴史散歩の会 (A)・2/12 (月) まちたびにしのみや (旧岡田家、旧石橋家)・2/24 (土) 令和5年度第4回市民ガイド (行基の足跡と西部地区)・2/29 (木) 塚口西住宅町会 (旧岡田家、旧石橋家)・3/3 (日) 摩耶サロン (A)・3/13 (水) 蘆屋川カレッジ山麓会 (A)・3/15 (金) 御夫婦 (高松市) (有岡城・本泉寺・大溝跡・猪名野神社)・3/31 (日) 渡井家 (神戸市) (A)・4/13 (土) 神戸シルバークレッジ歴史探訪クラブ (A)・4/25 (木) 刀根山若水会 (旧岡田家住宅・酒蔵)

【研修サロン班】活動記録詳細と予定はp6~p8に記載しています。

【学習支援班】3/23 (土) ラスタこども寺子屋

【旧岡田家住宅・酒蔵 ガイド当番】

4月12日から6月30日まで実施

## 今後の予定(5月~7月)

### 【定例会】

5/21 (火)・6/11 (火)・7/9 (火)

### 【史跡ガイド】

5/11 (土) 伊丹市職員厚生会 (A)・5/15 (水) 大阪府北部コミュニティカレッジ (A)

【旧岡田家住宅・酒蔵 ガイド当番】

6月30日終了 (令和6年9月から再開)

## 私たちと一緒に 文化財のガイドをしてみませんか

伊丹市内には有岡城や昆陽寺など、多くの文化財が残されています。当会は、伊丹市を訪れた方々に郷土の歴史や文化の魅力を伝える活動をしています。また、伊丹の民話をデジタル紙芝居で紹介する学習支援班や会員相互でパソコンを学ぶ分科会など、様々な分野で楽しみながら知識を広げていきます。ぜひ、私たちの仲間になって活躍の場を見つけて下さい。

なお、会員には正会員と準会員があり、今年は11月に開催される文化財ボランティア養成講座(全4回)を受講・修了すれば正会員となります。

■養成講座についてのお問い合わせは

伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課

文化財担当 (☎:072-784-8090) までご連絡ください。

## 会報(火曜会通信)はWEB版でご覧ください

伊丹市文化財ボランティアの会は、わが町伊丹の文化財を多くの人達に紹介し、その価値を後世に引き継いでいく活動をしています。会報(火曜会通信)は、その活動を記録し、残していく役割を担っています。これまでの会報全てがホームページに保存されています。いつでもパソコンやスマホからご覧いただけますので、ぜひWEB版をご利用下さい。



URL : <http://bunkazai.hustle.ne.jp/tuusin/tuushinmokuji.html>